

「For Others」の理念のもと、教育を通じて社会に貢献

フェリス女学院大学学長 秋岡 陽氏

日本で最も古い歴史を有する女子校

本誌 フェリス女学院は女子校として一四〇年余という日本で最も古い歴史を有しているのです。

秋岡 フェリス女学院の発祥は、一八七〇年(明治三年)に米国改革派教会の女性宣教師、メアリー・E・キダー氏が横浜のヘボン治療所で女子を対象に英語の授業を開始したことです。一八五九年の横浜の開港と同時に、米国の長老派教会から日本に派遣されてきた宣教師のヘボン氏と夫人のクララ氏はヘボン治療所へボン塾と呼ばれる教育活動を開始しましたが、このヘボン塾からキダー氏が女子教育を引き継いだのです。開学当時は「キダーさんの学校」と呼ばれていましたが、一八七五年六月に横浜・山手に校舎を新築した時その創設と維持に終始援助を惜しまなかった米国改革派教会外国伝道局総主事父子の名を記念して「フェリス・セミナリー」と名づけられました。その後、一八八九年にフェリス和英女学校、一九四一年に英語が敵性語とされた時代には学校の存在する地名を冠して横浜山手女学院に変

更しましたが、一九五〇年に再びフェリス女学院に改称するとともに専門学校を短期大学に改編し、一九六五年に本学を開学しました。現在は、文学部、国際交流学部、音楽学部の三学部・六学科(英文学科、日本文学科、コミュニケーション学科、国際交流学科、音楽芸術学科、演奏学科)に加え、人文科学研究科、国際交流研究科、音楽研究科の三研究科を擁する大学院を横浜市中区の山手キャンパスと同泉区の緑園キャンパスに展開しており、文学部と国際交流学部の一―四年度、音楽学部の一―二年度が緑園キャンパスで学んでいます。また、学校法人フェリス女学院としては、このほかにフェリス女学院中学校とフェリス女学院高等学校があります。

本誌 キリスト教の信仰に基づく女子教育を建学の精神に、「For Others」を教育理念として掲げていますが。

秋岡 キリスト教の布教のために派遣された人々によって本学が創設されたという歴史的な経緯からも分かるように、本学はキリスト教の信仰を尊重する立場からの女子教育を行っています。教育理念であるモットー「For Others」は「他者のために」と訳すことができ、自分中心ではなく「他者のために奉仕する」という意味ですが、この理念は特定の人がい出したのではなく、長い歴史の中で自然に浮かびあがり定着してきたものです。また、本学では「For Others」を、さらに「他者と共に」という意味にも広げ、共生の問題意識も大切にしています。このため、学生による多文化共生に向けた地域活動やボランティア活動などが積極的に展開されています。

本紙 創設者のキダー氏が来日したのは、女性に学校教育は必要ないと言われた時代です。

秋岡 米国のバーモント州の小都市に生まれ、教師として、改革派教会の宣教師として生涯を伝道と教育事業に捧げたキダー氏は、そうした時代にこそ、女性の教育が必要であると信じ、一八六九年に三五歳の若さで来日し、翌年にフェリス女学院を創立しました。当時はまだ、キリスト教の禁制の高札が掲げられ、日本人がキリスト教を信じることは禁止されていたのですが、この時にキリスト教の信仰に基づく女子教育を行っ



秋岡 陽（あきおか・よう）氏

1954年東京都生まれ。1979年・国際基督教大学教養学部人文科学科卒業。1981年・シカゴ大学大学院人文科学研究科修士課程修了(西洋音楽史専攻)。1982年・音楽之友社国際出版部入社。1993年・フェリス女学院大学音楽学部専任講師。1996年・同音楽学部助教授。2000年・同教授。2005年～2009年・同音楽学部音楽芸術学科主任。2009年より学校法人フェリス女学院理事。2012年4月・フェリス女学院大学学長に就任。
 フェリス女学院大学の教育理念：For Others、
 学部：文学部、国際交流学部、音楽学部、
 学生数：2695名（大学院含む）

たのが本学です。時代の先端を切り拓く学校で、果敢なまでに時代を先取りしていたのです。この精神を受け継ぎ、伝えていくことが現在の私たちの使命と考えています。

本紙 一九九七年に国際交流学部を開設しましたが。

秋岡 本学の成り立ちや横浜という土地柄から、日本人とだけでなくさまざまな国の人々とどう関わっていきけるか、ということを課題にしなければならぬと考え、国際交流学部国際交流学科を設置し、グローバルな視点から考え、行動できる女性の育成を目指しています。同学科で

は国際交流の領域に関する知識を修得するとともに、グローバルゼーションの時代にふさわしい教養や語学力を身に付け、世界に発信できる女性の育成を行っています。また、国際交流では欧米、アジアの一七大学と交換留学協定を結び、多くの学生を海外に派遣するとともに、韓国、中国を中心に多くの留学生を受け入れています。

エコキャンパス化を推進 風力発電装置などを設置

本誌 緑園キャンパスでは環境保全を実践し、エコキャンパス化を進

めていますね。

秋岡 地球の温暖化や環境ホルモンなどの環境問題は人間として生存していくうえで避けては通れない課題です。現在、文系の女子大学には環境関連科目が少なく、この課題を勉強する機会が少ないという状況にあります。本学では、次世代を担う若い学生たちこそ高い見識を持って環境問題に取り組んでほしいという願いを込めて、緑園キャンパスのエコキャンパス化を進め、風力発電装置や風力と太陽光を融合して発電するハイブリッド街路灯、ビオトープなどを設置しており、相鉄の緑園都

市駅からも望める赤い風車は本学のシンボルになっています。また、図書館などで、降った雨水をトイレ用水や屋上緑化に利用することも行っており、全国の女子大でここまで環境対策を行っているところはないと思います。なお、この本学の環境への取組みは文部科学省の二〇〇五年度「現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）」にも採択されています。

本紙 リベラルな校風、学風が特徴ですね。

秋岡 本学は学生たちが自ら考え、発言・提案する姿勢を大切にし、学生の自由を尊重する教育を行ってきました。ただ、この自由は勝手に好きなことをするという意味ではなく、新約聖書ヨハネによる福音書に「真理はあなたたちを自由にする」とあるように、真理を追究することによって得られる自由です。今後も学生が本心に自分の歩くべき道を歩ける「自由」を手にする教育を続けていきたいと思っています。そして、本学の存立の意義と果たすべき役割を再確認し、教育を通じ、社会に貢献していきます。